第100回長崎大学 FD 実施報告書

平成２５年　１２月　４　日 提出

1. 題目	「長崎大学障がい学生支援室」設置記念講演会
2. 開催日時・場所	日時：平成２５年１１月　７ 日（木）１６：１０ ～ １８：１０ 場所：総合教育研究棟　２階　多目的ホール
3. 主催	障がい学生支援室
4. 参加者数 (別紙に参加者名簿を添付すること)	６８名（学内教職員４５名，学外者２３名）
5. 長崎大学 FD に関する指針第二項への該当について 【複数選択可】	該当するものに○を記入すること [　○　] (1)　教員の教育活動に関するもの [　　] (2)　カリキュラムの改善に関するもの [　　] (3)　教育の組織的改善に関するもの [　○　] (4)　その他教育改善に関するもの
6. 今回の FD の主旨・意義 (5.に関連した形で記述すること)	平成 24 年 12 月に出された「障がいのある学生の修学支援に関する検討会報告（第一次まとめ)」を受け，平成 25 年 8 月 1 日付で長崎大学に『障がい学生支援室』が設置されました。現在，障がいのある学生への修学支援について大学として組織的な取り組みが始まっています。 今回，高等教育段階における障がいのある学生への修学支援について，我が国の動向や海外の状況を理解し，長崎大学における障がい学生への修学支援を充実させることを目的としました。
7. プログラム構成 [題目・担当講師] (当日使用した資料等を添付すること)	・「長崎大学障がい学生支援室について」 ピーター・バーニック氏（長崎大学障がい学生支援室） ・「我が国の障害学生支援の現状と今後の動向について」 田畑潤司氏 （文部科学省高等教育局学生・留学生課厚生係・就職指導係長） ・「高学年ＬＤ／ＡＤＨＤ学生へのアメリカの支援体制」 カニングハム久子氏 （長崎純心女子大学客員教授・アットマーク国際高等学校顧問・ 日々輝学園高等学校スーパーバイザー)
8. 実施した FD の成果等 (アンケート等の資料がある場合は添付すること)	別紙のとおり

9. 実施代表者の 連絡先	氏名：調　漸 部局：障がい学生支援室副室長 e-mail：shirabe@nagasaki-u.ac.jp　　内線：２００５
10. 申請者の連絡先	氏名：河野　美奈 部局：学生支援部教育支援課長 e-mail：m-kawano@nagasaki –u.ac.jp　　内線：２０６９

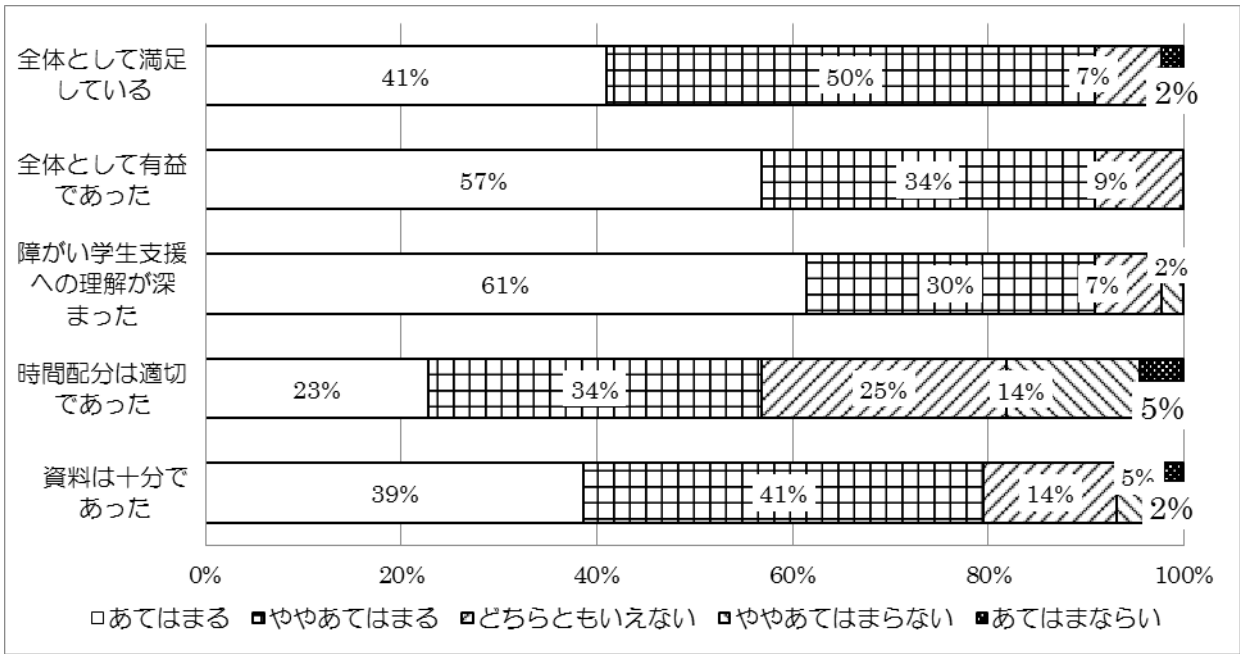
【参加者】

６８名（受講証発行対象者：45 名（学外者 23 名））

（内訳）

所　　属	人　数
教育学部	6
医歯薬学総合研究科（保系）	4
医歯薬学総合研究科（歯系）	2
工学研究科	4
水産・環境科学総合研究科（環境）	2
大学教育イノベーションセンター	2
保健・医療推進センター	5
広報戦略本部	1
財務部	8
施設部	1
学生支援部	6
医歯薬学総合研究科 事務部 薬学系事務室	2
工学部 支援課 学務係	1
環境科学部 支援課 学務係	1
学外者	23
計	68

【参加者からの評価】



○ アクティブラーニングのためのスペース活用に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入下さい。

- 概論的な話が多かった。
- これから試行錯誤の連続でしょうが、今後大切な取り組みだと思います。
- 大学にこういう機会に勉強にこれて、うれしかったです。
- 学長のリーダーシップ、責務が不可欠と思う。全学レベルでの障害学生支援研修会も今後開催していけるようにしてほしい。
- 小・中・高の教員も、大学の支援のことを知っておくと、保護者へのアドバイスや、支援の方法の幅が広がると思います。
- LD/ADHD などの診断ができる専門家が何人も必要なのでは？
- これから頑張りましょうか。そのためのチャンス(?)をもらった気がします。
- 学生自体に自覚を促す。自分には援助が必要で、また援助を受けることができる、ためにどのような手法を用いるかが難しい。
  また、親との関係性が大事だが、いつ親とコンタクトをとるかなどの対応が知りたい。
- 配慮の内容の情報を全学的に共有できるシステムを構築して下さい。
- 今後の方向性を支援室からの資料として配布して欲しい。
- 大学全体としての支援が必要です。
- 長大でこのような支援を行うことを知り、いい意味で驚きです。いい方向に向かっていくことを願っています。
- 知識を持って受講すれば、もっと理解出来たのではないかと感じました。
- 大学全体として LD 専門家を雇用するなど支援が重要であることがわかった。
- 具体的な支援メニューについて、多様性の為明記されていないが、アメリカほど専門家がいない状況からみて質を保持するために必要ではないかと感じた。

- 合理的配慮－言葉(内容)的には理解できたが、具体的にどのように実施していくか、本当にこれからいろんな具体的なケースから学び、考えていかなければならないと思った。
- 障がい者受入体制が整備されたら、HP で公開されたらいい。障がい者が有形、無形のバリア(障壁)を感じたら、合理的配慮とはいいがたい。"支援の三角形"の連携が必要である。
  本部→財政的措置
  部局→人的・物的サポート
  支援室→ノウハウの提供
  ※ 実務研修を増やさないと、学生は部局に在籍するのです。
- 「支援」というとどこか差し出がましさがある様な気がしますが、同じ社会に生きる同士であるという視点が基本なのではないかと思っています。

○ 今回のシンポジウムの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入下さい。

- 多岐に渡る LD ではあるが具体的な対応事例が今後聞いてみたい。
- 日本の大学の事例紹介的な話が聞きたかったです。しかし、内容的にはおおむね満足しています。
- カニングハム先生のお話をもう少し聞きたかったです。
- 継続的取り組みが必要ですね。
- カニングハム先生の話をもう一度聞く機会があるといいですね。
- 今回のような専門家の講演会があれば助かる!
- とてもよかったです。当日にこの講演会があることを知ってラッキーでした。もっと広報していいと思います。
- カニングハム先生の数々のご経験に基づいた実践的な内容をうかがえて大変実りがありました。また、自身の不勉強を反省し、より正確で困難を抱える方々へのお役に立てるよう、学びを深める意欲がわきました。有難うございました。
- 開始時間を早くして頂けた方が良かったのではないかと思いました。
- 講演時間を調整して、十分に質疑ができればよかった。講演時間はもっと長くてもよかった。
- カニングハム久子先生の質疑応答の時間を長くとって頂いた方がよかった。
- 全体的に中途半端な FD の印象であった。キーワードがぼけてるような。
  特別講演に対する時間配分が不適切であった。(Q&A の時間をもっと必要であった。)
  講演は HP で公開されて、既読ずみであったため。インパクトがなかった。
  ※カニンハム氏に特化してもよかったのでは・・・　箱物を設置した以上、中身の充実に期待する。まずは、キャリアスタッフを充実させて、独立センター的な運用が好ましい。
- 質の高い、ユーモアのある話でした。教科書だけでは分からない、このような機会はとても有益だと思います。